

シャイニング・プリンス：『源氏物語』 翻訳本の世界

"Shining Prince : The World of The Tale of Genji in various translated versions"

会期：2024年10月1日（火）～12月26日（木） 場所：中央図書館「思考の森」展示コーナー

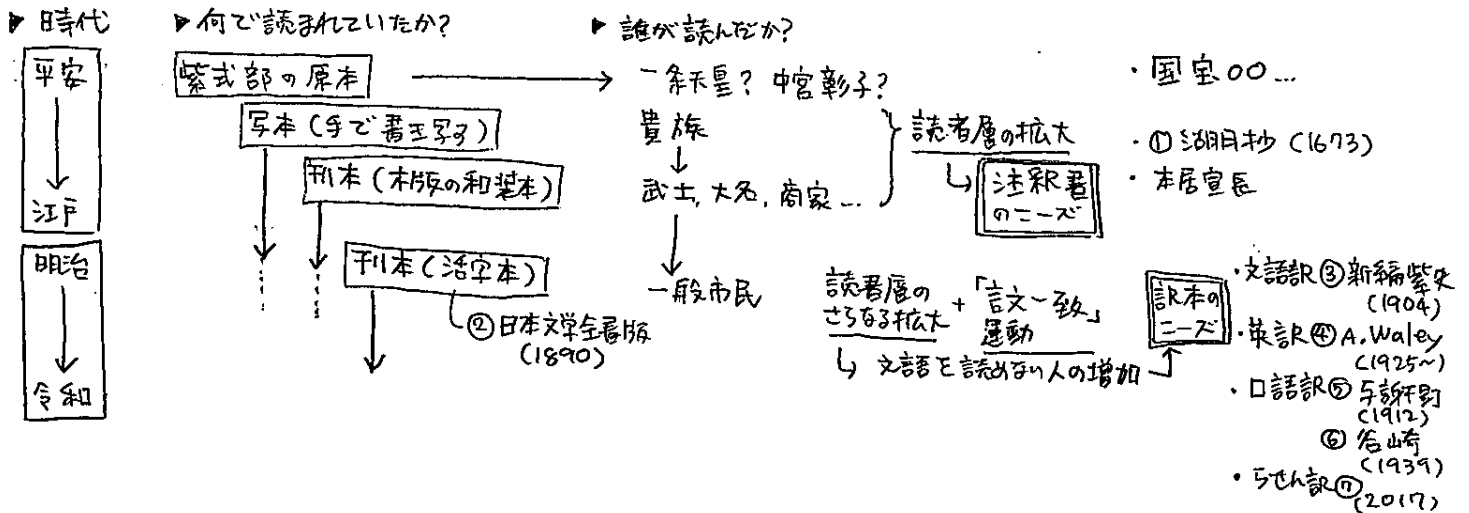
■はじめに

『源氏物語』が紫式部によって書かれて1000年以上になります。これほど長く、広く、日本文化に影響を与えて来た古典作品は他にないでしょう。その一方で、古い時代の言葉で書かれた54帖に渡る長大な作品全体を原文で読み通すことは、時代を追って難しくなっています。その解釈のために多数の注釈書が書かれ、明治以降はその時々々の現代語訳が続々登場しています。中でも特筆すべきは、アーサー・ウェイリーによる英訳版です。この翻訳により『源氏物語』は世界に広まりました。近年このウェイリー版を日本語に訳し戻した版まで出てきています。與謝野晶子による口語訳版の登場以降、現代語で『源氏物語』を読むことが増えてきている中、本物の持つ「言葉の魅力」が失われてしまうのでは、という懸念もあります。

今回の展示では、時代を越えて解釈され訳され続けてきた、『源氏物語』の色々な翻訳本を金沢大学附属図書館の蔵書の中から紹介します。翻訳本の意義と問題点を考えながら、『源氏物語』の世界に深く入っていくための入口になることを期待しています。

■主な展示資料 ※一部はパネルのみの展示

- ① 湖月抄 / 北村季吟著. ※1673 (延宝元年) に成立した江戸時代以降定番だった注釈書 【四高 7:24:47】
- ② 源氏物語 / 紫式部著 (日本文学全書). 博文館, 1890(明 23)-. ※明治時代に刊行された活字版【中央図書館 918:N691:8】
- ③ The Tale of Genji / by Lady Murasaki ; translated from the Japanese by Arthur Waley. G. Allen & Unwin 1925.
※1920年代に英訳されたもの 【四高 7:28:156】
- ④ 新編紫史：一名通俗源氏物語 / 増田于信訳 ; 本居豊穎校閲. 誠之堂書店, 1904 (明 37) .
※明治時代に文語体に訳されたもの。【四高 7:24:63】
- ⑤ 新訳源氏物語 / 與謝野晶子訳. 金尾文淵堂 1912 (明 45)-1913 (大 2). ※大正時代の現代語訳【四高 7:24:45】
- ⑥ 潤一郎訳 源氏物語 / 谷崎潤一郎訳. 中央公論社, 1939(昭 14)-1941(昭 16). ※昭和時代の現代語訳【四高 7:24:221】
- ⑦ 源氏物語 : A・ウェイリー版 / 紫式部著 ; アーサー・ウェイリー英訳 ; 穂矢まりえ, 森山恵日本語訳. 左右社, 2017年. ※③の英訳版を再度日本語に訳した「らせん訳」版【中央図開架 913.369:M972】



■「光る君」はどう訳されている？

③ A. Waley 版「桐壺」 ...people called him Hikaru Genji or Genji the Shining One; and Princess Fujitsubo, who also had many admirers, was called Princess Glittering Sunshine.

⇒ ⑦らせん訳 では「シャイニング・プリンス」「ヒカル・ゲンジ」と訳している。

■「桐壺」の冒頭を比較してみよう ※番号は前頁「主な展示資料」に対応

【オリジナル②】 いつれの御時（おおんとき）にか、女御・更衣数多さぶらひたまひける中に、いとやんごとなき際（きわ）にはあらぬが、優れて時めき給うありけり。はじめより、我はと思ひあがり給へる御かたがた、めざましきものに貶（おと）しめ妬（ねた）み給ふ。

【④文語訳】 何(いつれ)の帝の御時にかありけん。女御、更衣ども数多(あまた)伺候(さふら)ひける中に、いと尊き身分(きわ)にはあらねど、人より勝れて時めきし一人の更衣あり。我こそはと初(はじめ)より思ひ上りし他の人々は、これを妬(ねた)みて様々に貶(おと)しめ、…

【与謝野晶子訳】 ※⑤ではない『新新訳源氏物語』（1938-39年）

紫のかがやく花と日の光思ひあはざることわりもなし（晶子）

どの天皇様の御代であったか、女御とか更衣とかいわれる後宮がおおぜいいた中に、最上の貴族出身ではないが深い御愛寵を得ている人があった。最初から自分こそはという自信と、親兄弟の勢力に恃む所があって宮中にはいった女御たちからは失敬な女としてねたまれた。

【谷崎潤一郎訳】 ※⑥ではない『潤一郎新訳源氏物語』（1951-53年）

何という帝の御代のことでしたか、女御や更衣が大勢伺候していました中に、たいして重い身分ではなくて、誰よりも時めいている方がありました。最初から自分こそはと思いがっていたおん方は、心外なことに思って蔑んだり嫉んだりします。その人と同じくらいの身分、またはそれより低い地位の更衣たちは、まして気が気ではありません。

【⑦A.ウェイリー訳】 At the Court of an Emperor (he lived it matters not when) there was among the many gentlewomen of the Wardrobe and Chamber one, who though she was not of very high rank was favoured far beyond all the rest; so that the great ladies of the Palace, each of whom had secretly hoped that she herself would be chosen, looked with scorn and hatred upon the upstart who had dispelled their dreams.

【⑧ウェイリー版・らせん訳】 いつの時代のことでしたか、あるエンペラーの宮廷での物語でございます。

ワードローブのレディ（更衣）、ベッドチェンバーのレディ（女御）など、後宮にはそれはそれは数多くの女性が仕えておりました。そのなかに一人、エンペラーのご寵愛を一身に集める女性がいました。その人は侍女の中では低い身分でしたので、成り上がり女とさげすまれ、妬まれます。あんな女に夢をつぶされるとは。わたしこそとグレートレディ（大貴婦人）たちの誰もが心を燃やしていたのです。

■参考文献

- 文豪の古典力：漱石・鴉外は源氏を読んだか / 島内景二著（文春新書）. 文芸春秋, 2002.
- ウェイリー版・源氏物語：「ゲンジ」は、こんなに面白い! / 安田登（NHK テキスト. 100分 de 名著）. NHK 出版, 2024
- 源氏物語 / 紫式部著；角川書店編（角川ソフィア文庫）. 角川書店, 2001

■企画・執筆 金沢大学附属図書館 学術情報課貴重資料担当 E-mail: collection@adm.kanazawa-u.ac.jp